

# もっと知ろう陶

## 12. 桜ヶ丘公園



桜ヶ丘公園は日露戦争（明治 37 年～38 年）の戦勝記念として大正元年（1912 年）に開園しましたから 100 年以上の歴史があることとなります。公園の名前は永井園次郎（陶村誕生時の村長で、陶という地名の名付け親）が名付けました。開園以来、桜の木の増殖を続け、名前にふさわしい公園となってゆきました。

公園中央の木立の中には陸軍大将 乃木稀典の書による「明治三十七八年戦役記念碑」とともに、日清戦争の「従軍記念碑」（明治 30 年建立）、曾根翁紀功碑（明治 22 年建立）がこの地に移され、大正 12 年には中村翁壽碑が追加され陶祖の地ともなりました。

公園内には広場とともに馬場もあって公園の周囲を馬が走ったそうです。また、大弓場もあって陶の弓引き（弓道）の原点の地となりました。

昭和の頃、名前に恥じず立派に桜の花が咲くと老若男女が集い、酒を楽しみ、歌に踊りに興じて公園は歓楽の地と化しました。花見は数少ない娯楽だったのです。また、労働組合の集会にも利用されメーデー・春闘などの活動拠点ともなりました。今や陶で「労働組合」は死語となってしまいましたか？

丘の上にある公園からの眺望は素晴らしく、北側及び西側からは猿爪地区をほぼ一望でき、南側からは猿爪村の寺社である宝昌寺と天神社を望むことができます。恋人同士がここで語らうデートスポットでもありました。

近年、桜の木の老齢化、人口減とともに公園利用者・花見客も減っていましたが、公園に昔の賑わいを取り戻そうと、平成 16 年に時の猿爪区長西戸さんたちにより「桜まつり」が復活して以来、猿爪区・街づくり等の皆様の尽力により毎年開催されており、今年も 4 月 14 日・15 日の土日に桜まつりが開祭されます。私も戦争記念のことは忘れ、皆が集う平和を楽しみたいと思います。

